

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 13 日作成)

|                              |  |                                |                               |
|------------------------------|--|--------------------------------|-------------------------------|
| 小委員会名                        | 環境建築小委員会   |                                | 主 査 名：郡 公子<br>就任年月：2017 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 環境工学委員会<br>(建築設備運営委員会)   |                                | 委員長名：岩田利枝<br>主 査 名：秋元孝之       |
| 設 置 期 間                      | 2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月  |                                |                               |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術動向と将来予測に関する討議</li> <li>・ 環境建築の設計・運用事例と実績データの収集と分析</li> <li>・ 環境建築の評価研究や技術の開発、性能予測研究の事例収集と分析</li> <li>・ 大会において OS を企画・実施</li> </ul>  |                                |                               |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))           | 委員公募の有無：無  |                                |                               |
|                              | 主査：郡公子 (宇都宮大学)、幹事：永田明寛 (首都大学東京)、中山哲士 (岡山理科大学)、委員：赤司泰義 (東京大学)、石野久彌 (首都大学東京)、岩渕弘太 (松田平田設計)、宇田川光弘 (工学院大学)、大木泰祐 (大成建設)、菊田弘輝 (北海道大学)、木幡悠士 (NTT ファシリテーター)、小池正浩 (竹中工務店)、長井達夫 (東京理科大学)、羽山広文 (北海道大学)、村松宏 (日建設計)、山本佳嗣 (東京工芸大学) |                                |                               |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           |  |                                |                               |
| 2018 年度予算                    | 100,000 円  | ホームページ公開の有無：無<br>委員会 HP アドレス：無 |                               |

| 項 目   | 自己評価  |
|---|---|
| 委員会開催数  | 8 回 (年度内計画を含む)  |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)                     |   |
| 講習会   |   |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>*能力開発支援事業委員会<br>承認企画 |   |
| 大会研究集会  |   |
| 対外的意見表明・パ<br>ブリックコメント等                        |   |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得ら<br>れた成果との関係)            | 8 回の小委員会 (第 7 回は 2017/2/22、第 8 回は 2018/3 月開催予定) と見学会を開催し、幅広い情報収集と討議を行った。<br>2018 年度大会では OS「環境建築の環境・エネルギー性能を考える」を企画し、計 11 編 (3 セッション) の応募があった。 |
| 委員会活動の問題点<br>・課題                              | 特になし  |

## 2018 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

| 総合評価<br>(4 段階評価)                         | A   | B | C | D |
|--|---|---|---|---|
| <p>総合評価に関する<br/>自由記述欄<br/>(理由、特記事項等)</p> | <p>環境建築小委員会を 8 回開催（第 7 回を 2018/2/22、第 8 回を 2018/3 月開催予定）し、以下の活動を行い、充実した成果を得た。</p> <p>○環境建築の技術や性能予測・評価、環境建築の性能に関する情報収集と検討<br/>環境建築に関する最新の情報を収集・整理することにより、新しい出版物を企画するために参考となる知見を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・潜顕分離空調方式の効率向上と計画手法：新しい空気式放射冷暖房空調方式の性能予測法、制御性について検討を行った。</li> <li>・多角的評価のための建築シミュレーションエンジンの開発：熱負荷・熱環境シミュレーション法、対流空調と放射空調の特性評価、省エネ手法の相互作用を考慮するエネルギー評価方について検討を行った。</li> <li>・建物周辺の緑化空間における不快昆虫の採集装置の開発と評価：自然換気や通風の妨げになる不快昆虫の発生の測定法と評価結果について検討を行った。</li> <li>・積雪寒冷地の中規模事務所建築における運用・投資による省エネ効果の検討：省エネ改修、設備改修による省エネルギーと費用対効果の検討を行った。</li> <li>・ゆらぎを生み出すダクトレス空調方式を採用する建築事例：環境建築の計画法とその実測評価結果について検討した。</li> </ul> <p>○環境建築の実地調査<br/>環境建築設計論刊行小委員会と合同で実施し、最新の環境建築の技術を確認すると共に、出版物の内容推敲に協力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東学院大学環境棟：ダブルスキン、外部ルーバー、自然換気、放射冷暖房設備等、制御とその効果の見える化、学生自身による調整などの技術を確認した。</li> <li>・東テクグループ本社ビル、品川シーズンテラス(2 月実施予定)：次世代人検知センサーによる制御、超高層対応型太陽光採光システムをはじめとする技術を確認する予定である。</li> </ul> <p>○大会 OS の企画と実施<br/>OS を企画・実施することで、建築設備分野の活性化に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018 年度：「環境建築の環境・エネルギー性能を考える」というテーマで、OS を開催した。計 11 編の発表があり活発な討論を行った。</li> <li>・2019 年度：「環境建築と ZEB の協調」というテーマで OS を企画した。</li> </ul> |   |   |   |

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。